

平成29年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会評価報告書

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標〈1：確かな学力の向上 2：豊かな心の育成 3：健康教育の推進 4：ふるさと教育〉

評価項目		評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	学校関係者評価コメント
知	確かな学力の向上	① 指導方法・指導体制の工夫改善によって学力が向上しているか。	① 4月に行われた全国(6年生)及び県(4、5年生)の学力学習状況調査では、4、6年生がそれぞれの平均を下回る結果であった。「一人一人がわかる・できる授業を目指して」授業改善を行ったり、山田地区の小中一貫教育でも学力向上に取り組んでいるが、アンケートでは授業がわかり楽しいと回答した児童が8割に届いていない。 ② 全校の貸出冊数は、学校の図書室と市の移動図書館を合わせて*6,951冊(目標4,500冊)と目標を上回っているが、アンケートでは、児童・保護者・職員ともにやや低い結果となり、読書に対する二極化や深い読みができていとは言いがたい。 ※冊数は、1月末時点の学校図書館と市移動図書館の合計貸出数	3.13	○ 山田地区をあげて小中学校で連携して取り組むことは、中学校入学後を見据える上でもよいことである。 ● 読書の冊数は伸びているが、じっくり文章を読むことは苦手に感じている子が多いのではないかと。 ● 宅習などで漢字や計算などはやっているようだが、文章問題などに取り組んでいる様子はあまり見られない。
		② 読書活動の推進が図られているか。			
徳	豊かな心の育成	③ 人権教育・道徳教育の充実が図られ、思いやりの心が育成されているか。	③ 日頃の授業の他、毎月行うアンケートにより、いじめにつながるような小さなことも見逃さず、早急な対応を図り、アンケートでも概ね良好な結果であった。ただ、小規模校ならではの序列ができやすく相手により態度が変わる児童もいるため、注視していく必要がある。 ④ 異学年班(ファミリー班)での活動や全校児童で遊ぶ日の取組等を実践し、少数数ならではの人間関係づくりを構築することができた。しかし、子どもによっては、差別的な言動が見られる児童もおり継続的な指導が必要である。	3.25	○ 親子で参加できるノーメディアの取組は良い。ただ、家庭でのゲームやスマホの管理状況など、親の意識改革も必要ではないか。 ● 登校班で、横に広がったり、おしゃべりに夢中になっている児童を見かける。交通ルールを守りマナーを身につけさせることも必要である。
		④ 児童相互の絆を深めるとともに対人関係能力の育成が図られているか。			
体	健康教育の推進	⑤ 体力向上プランに沿って計画的・継続的に体力の向上が図られたか。	⑤ 山田地区の小中一貫の取組として、立腰指導や食育の充実に取り組んだ。しかし、体力テストの結果からは、長座体前屈の伸びはわずかであり、また、特に女子において体力の二極化が顕著になってきている。 ⑥ 無欠席児童が33名、全員登校の日数が66日/153日(ともに12月末時点)と良好な状況にある。しかしアンケートでは「早寝、早起き、朝ごはん」の基本的な生活習慣ができていとの割合が昨年と同程度に低いため、引き続き家庭への啓発や連携が必要である。	3.16	○ 県の課題としている「握力」については平均以上となっており良い。 ● 反復横跳び(敏捷性)やシャトルラン(持久力)などの数値が低い。外で遊ぶ機会が減っているのではないかと。 ● 朝家の人に送ってもらおう児童もいて、夜更かしなど家庭での生活習慣が乱れているところもあるのではないかと。
		⑥ 基本的な生活習慣の定着や心身ともに健康に生活する態度が育成されたか。			
ふるさと教育		⑦ 家庭や地域との連携による教育活動の充実が図られたか。	⑦ 各教科や学校行事等の中で、地域探検や様々な体験活動、俵踊りの伝承披露、地域住民との交流といった、地域への理解を深めたり地域住民の協力を得ながらの教育活動を行うことができた。しかし、アンケート結果からは、地域に対する誇りや愛着の評価が、他の項目よりも低い傾向が続いている。総合的な学習などの見直しにより改善していきたい。	3.27	○ 秋田県潟上市との交流では、保護者の協力を得て行っていた。もっと保護者が参画する手立ても考えてほしい。 ○ 俵踊りの伝承は今後も引き続き行ってほしい。 ● 保護者や地域と関わる行事が減ってきているように思う。 ● スポーツ少年団等の活動に追われ、親子ともに地域の行事に参加できない状況がある。